

東京天台

平成二十二年
秋彼岸号

発行所
天台宗東京教区

板倉慈慎

〒107-0062 東京都港区南青山1-3-22
TEL.03-5785-3481

<http://www.tendaitokyo.jp/>



薬師如来像

このような薬師如来のお方にすがりたいという人々の願いは今も昔も強かったのではないのでしょうか。古くは天武天皇が奈良の薬師寺の建立を發願したのは、皇后の眼病が治ることを祈ったことでした。

薬師如来のような強い決意を自らの心にたもち、仏道修行に励まれたのではないのでしょうか。

古来「寅薬師」といい、今年
の干支である寅年や寅の日に
薬師如来をお参りする習慣
があります。皆様のお参りの一
助となりますよう、薬師如来
がどういふ仏さまか、ご紹介い
たします。

とりわけ薬師如来にはその性
格が強く、「名医」を意味する
「薬師」の名前が付けられ、ま
た多くの薬師像は左手に藥
壺をたずさえています。
ところが薬師如来は最初か
ら「名医」であつたわけではあ
りません。そこにいたるまで
は大変なご努力があり、それ
は人々の苦しみを救おうとい
う、強い決意にささえられてい

たのです。
「いま多くの人が病気に
かつて苦しんでいる。そのなか
には医者による治療も薬もな
く、また住む家も身寄りもな
く、貧困に苦しむ者もいる。も
し私が仏となつたときには、
人々の病気が治り、体も心も
苦しむことがなく、生活に困
ることがないようにしよう。」
〔薬師経より〕

長い年月の間、薬師如来は
一所懸命に修行を積み重ね、
ついに自らの決意を現実の
ものとしたしました。苦しみ
も悩みもない、私たちにとって
の理想像がここに完成したの
です。

薬師如来と天台宗との縁
は特に深いものです。宗祖伝
教大師は比叡山に入山して
間もなく自らの手で薬師像を
刻み、その薬師如来を比叡山
延暦寺の根本中堂のご本尊と
しました。伝教大師もまた、
薬師如来のような強い決意を
自らの心にたもち、仏道修行
に励まれたのではないでしょ
うか。

慈悲の仏さま お薬師さま



延暦寺 根本中堂

木下川薬師ご開帳



上野寛永寺をはじめ東京の天台宗で薬師如来を本尊としている寺院は二十五ヶ寺ある。その一つ、木下川薬師浄光寺(葛飾区)では、このたび開山千百五十年を迎え、伝教大師最澄御作の薬師如来像のご開帳が行われる。江戸幕府將軍家の祈願の折にだけご開帳された秘仏の薬師如来像の全身開帳は開山以来となる。

浄光寺の始まりは平安時代初期、嘉祥二年(八四九)にさかのぼる。

江戸時代には家康公より薬師如来供養料として朱印地を寄進され、浄光寺は浅草寺の末寺筆頭の寺格を与えられる。家康公亡き後も、鎮護国家の道場として長く將軍家の祈願所として栄えた。勝海舟も浄光寺を愛した一人で海舟の書簡なども残っており今日に至るまで衆生済度の光明を照らし続け、現在でも「木下川のお薬師様」として人々の信仰を集め広く親しまれている。

秋来ぬと目にはさやかに見えねども 風の音にぞ驚かれぬる(秋になった兆しはまだ目にははつきりと見えないが、吹く風の音にはつと気づいたことだ。)

『古今集』に収めるこの有名な和歌は、私も大好きな一首ですが、海外でも日本人の感性を端的に表現した作品として知られています。でも、どうでしょうか。現代では自宅に冷房が利いているばかりでなく、外に出掛けるにしても、玄関を出て少し歩けばエアコンの浸けの電車や自動車に乗り継ぎ、下車してもまたすぐに冷やされた建物の中に移動するだけ、という一見便利な環境にすっかり慣れて、さしずめ秋の到来を識るのは送風機の音が止まった時といった状況です。

このままではいずれ、歌に詠まれたような微かな雰囲気を感じ取る繊細な能力など失われてしまうのではないのでしょうか。

ところで、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」をご覧になつていられる方も多いと思いますが、主役を演じる人気歌手のファンである家内の影響で私も毎週欠かさず観ています。

この番組は斬新な脚本と演出も好評ですが、先日は、勝海舟が、世間にはびこる排他主義を激しく非難する弟子の坂本龍馬に、次のような言葉を投げかけていました。

「そんなのはほっとけ！人は

博士は、表皮にはもともと脳や感覚器の原型が存在していて、むしろ表面の皮膚に生命の持続に関わる重要な機能が詰まっている、と大変興味深い説を述べておられます。

ここで私がいう「肌」とは、もちろん皮膚に限らず全身全霊のこと、仏教的にいえば眼・耳・鼻・舌・身・意の六根すべてを含めます。

仏教では、これら六根に依つて起る感覚認識に盲従することを厳に戒めますが、同時に、これらの感官を整え澄ませるという、肌で感じることに大切さをじっくりと考え直したいものです。

資生堂研究センターで皮膚の研究をされている傳田光洋

【一般ご開帳期間】
平成二十二年
十月十二日(火)～十七日(日)
十時～十六時
※但し十七日は、十時～十二時。交通

京成押上線「四ツ木駅」より徒歩約十分
バス・JR「新小岩駅」より京成タウンバス52系統「木下川薬師(やくし幼稚園前)」下車
※尚、お車でのご参詣は、遠慮下さい。
《お問合わせ》
浄光寺 〇三―三六九―〇二〇〇
(九時～十七時まで)

現代社会と仏教 肌で感じる

口で言つたつて分かるもんじゃねー。そのうち人は肌で感じて変わっていく。そしてそのうち悟るんだ。」

この台詞は『海舟語録』からの翻案と思われませんが、名優の演技力も加わつて、物事の本質はなるほどおのずと肌で感じるものだと妙に納得させられたことでした。

資生堂研究センターで皮膚の研究をされている傳田光洋



Let's 写経

今、「写経」が静かなブームのようです。現代の複雑な社会に生きる私たちは、日々いろいろな思いに悩まされており、写経によって心を落ち着けて、自分本来のやさしい、素直な心を取り戻したいという思いも切実なのではないでしょうか。

「写経止観」という言葉があります。写経とは、筆先を「一字一仏」といわれる經典の文字に集中することで、日常生活のなかで乱れがちな心を練り上げ、決して外界の喧騒に動かされることなく心を「止」め、それによって正しい智慧をおこしてものごとを正しく「観」ることです。つまり私たちの心を仏心にまで高める修行法なのです。また近年の科学調査により、写経を

行うとポケ封じになるということが立証されています。

綺麗に書こうとか、人より早く仕上げようとか、そういった心から離れ、日々のおこないを懺悔して、心から仏と向き合うことが重要です。

「法華経」にも、経を書写することが修行者として功德ある行いであると説かれております。さあ、みなさんも写経をやってみませんか。

今回は左記の寺院での写経会をご紹介します。

記

・金蔵寺(台東区寿)

毎月第三日曜日

午前十時より

・天王寺(台東区谷中)

毎月三十日

(三十日が日曜日の時は二十九日)

午後二時より

・安養院(日野市平山)

毎月十八日

午前十時より

お問合わせは東京教区宗務所まで

一隅を照らす運動 東京大会

「第四十一回 一隅を照らす運動 東京大会」が六月十二日、千代田区九段会館において約千名の檀信徒が集まり盛大に開催されました。

第一部では輪王寺御門主を導師に教区法要が厳かに行われ、御詠歌や声明の調べと共に、子供達による舞楽奉舞が華をそえました。



また一隅運動を実践している方々に、板倉慈愼東京教区本部長より表彰が行われました。

第二部では、寛永寺前執事長の浦井正明師とNHK大河ドラマ「篤姫」の脚本家、田淵久美子氏による「篤姫と寛永寺」と題した対談が行われました。普段聞くことの出来ない番組の制作にまつわるエピソードや、裏話などをユーモアを交え対談されるお二人



に、興味深く聞き入る参加者より、盛大な拍手が送られました。

一隅運動表彰者(敬称略)

- | | |
|--------|-------|
| 望月 丈光 | 松澤 茂樹 |
| 角田 富恵 | 竹内 久 |
| 藤井七五三吉 | 江藤 鐵夫 |
| 山本 喜久 | 岩田 たつ |
| 青木 幸枝 | 栗原 滋 |
| 谷郷美代子 | 山田マツイ |
| 川崎 裕康 | 櫻井 清 |
| 佐藤 才 | 石川 昭光 |
| 脇坂 のぶ | 大久保良直 |
| 市川 文胤 | 川杉 洋一 |
| 坂野 利子 | 小山 銀蔵 |
| 柴田 光久 | 平野 知己 |
| 須田 長光 | 矢内由紀子 |

「善意の募金」御礼

皆様より御協力を賜りました善意の募金は左記の通り活用させていただきました。茲に謹んでご報告と御礼を申し上げます。

記

一、天台宗地球救済事務局

委託金へ

九〇一、五六九円 也

以上

明静院

開創は今から約四八〇年前の室町後期、享祿三年(一五三〇)、中丸郷、喜多見等を所領していた喜多見家第十三代の江戸駿河守廣重の外護により、台順法印が開基された。

当時の寺名は養安寺と号し、小田原北条家から喜多見の内貫文を寄進されていた。第八世中興、義元(享保十六年没)のとき寺名を明静院に改めた。明治に入ると、近隣にあった明教寺、宅蔵院の二ヶ寺が当寺に合併された。



阿弥陀如来像

当寺の本尊は阿弥陀如来座像。近年科学的な調査により、お顔の前面が平安後期の作で、江戸時代に大規模に修復されていたことが判明した。どのよう

な経緯で平安時代のお像が伝わったかは不明であるが、狛江市内では最古の仏さまとして貴重である。また同時に調査された行基作と伝えられる薬師如来像の胎内には、天正二年(一五七四)に尊像を造立したという銘文が確認された。すなわち当山開基の頃に遡る古像であり、この辺りの飢饉や疫病などの平癒を願って造立されたことが窺える。

圓住院

当山は承久三年(一二二二)に明禅法師が開山し、その後元和年(一六二五)に喜多見若狭守忠重により喜多見水川神社の別当、禱禪寺末の寺として再建され、重知和尚を開基とし、現在に至っている。隣接する日枝神社は当山の守護として祀られたものであるが、明治以降切り離されて尚、当山の境内に木陰を作り、外観を引き立てている。

現在の本堂は昭和三十二年に二五世昌賢の代に再建されたものである。

圓住院の本尊は聖観世音菩薩で、深く信仰を集めている。法要の際には、住職と檀信徒が一

体となり静かな寺域に「観音經」を誦する声が響いている。



天台の寺めぐり

30

狛江市・多摩川周辺

玉泉寺

多摩川の河川敷より約二百メートルの位置、小田急線の和泉多摩川駅前、玉泉寺はある。開創(六三四)当時は多摩川の反対側右岸に位置していて、度重なる戦乱や洪水に苦しんだ。こ

のため中興開山尊祐法印により、永正元年(一五〇四)に現在の地である多摩川左岸に堂宇を再建する。その際に古来よりの薬師尊に加え、行基作の十二面観音を併安し、更に鬼門除けの熊野権現を祀った。この事から、熊野山観音院玉泉寺を名乗り現在に至っている。

昭和初期に小田急線が境内西側を横断し、駅が開業したことにより寺の近辺は商店や住宅が立ち並ぶようになった。しかし石井作平作の『カッパのクー助』に、江戸から逃れ空をひたう飛びしたクー助の落ちたところが、境内にあるナンジャモンジャの木の上だったと当寺が登場してい



玉泉寺 本堂

る。平成の現在でも玉泉寺の寺域は深い緑に囲まれ、山門脇のナンジャモンジャの木は毎年その花を咲かせ、近隣のオアシスとなっている。